

長崎県工業技術センターだより

CHALLENGE

2026年5月号

No.243

…… もくじ ……

巻頭言	_____	1p
▪ 着任のごあいさつ（工業技術センター所長）		
新規事業紹介	_____	2p
▪ 光学的手法を応用した外観検査技術の開発		
▪ 配光制御した LED 照明ユニットの開発		
トピックス	_____	4p
▪ 見学対応報告・研究キャラバン		
▪ 受賞報告		
研究会・セミナー報告	_____	7p
工業技術センター便り	_____	13p
お知らせ	_____	14p

着任のごあいさつ

長崎県工業技術センター 所長 柳下 立夫

4月1日付で長崎県工業技術センター所長に着任いたしました柳下 立夫（やぎした たつお）です。よろしくお願いいたします。

前職の国立研究開発法人産業技術総合研究所においては、微生物を変換素子とした電池（微生物電池）、LCA（Life Cycle Assessment）を含む環境影響評価、木材成分の有効利用技術等の研究開発を行っており、また知的財産や地域連携に係る仕事等に携わってまいりました。これまでの経験を生かして、長崎県の産業の活性化に取り組んでいく所存です。

さて、近年我が国を取り巻く社会環境はめまぐるしく変化しており、その対応が求められています。加えて長崎県では人口の流出が大きな課題となっており、地域の産業の活性化が急務となっています。国においては、地域創生総合戦略や地域未来戦略といった地域戦略が示され、長崎県においても「ながさき産業振興プラン 2030」が策定されて今年度から走り出しました。「ながさき産業振興プラン 2030」では、「基幹産業の振興」、「中小・小規模事業者の持続的発展」、「産業人材の育成・確保」の3つの基本方針が示されています。

長崎県工業技術センターでは、「研究開発」、「技術支援」、「情報発信・収集」の3つの大きな支援メニューを掲げ、関係機関様とも連携をしながら、県内企業の皆様の技術課題解決や新たな価値の創造に取り組むことにより、地域の産業の活性化、そして発展に強く貢献していきます。

具体的には、長崎県の重点成長産業である、造船産業、半導体産業、航空機産業、そして海洋・エネルギーをはじめとしたGX産業分野への技術支援を推進していくとともに、食品産業をはじめとした地域ものづくり産業の担い手であります企業の皆様に伴走した技術支援を実施していきます。そして、すべての産業に共通した課題であるDX化等への支援も取り組んでいきます。

これまでと同様に、技術相談や企業訪問等を通じて県内の企業様のニーズをお伺いし、共同技術開発や共同研究を実施して企業の皆様への技術支援を実施していくとともに、依頼試験や設備開放にも引き続き取り組んでいきます。また、本誌の発行やさまざまなセミナーを開催し、センター職員の持つコア技術等を皆様に紹介、そして実習等も行いながら企業の皆様への技術移転を進める活動を推進することにより、県内の技術人材の育成にも貢献していきます。

センター職員一同、日々研鑽を積みながら皆様のご期待に沿えるよう精進していく所存です。ぜひ、長崎県工業技術センターをご活用いただきますよう、よろしくお願いいたします。

光学的手法を応用した外観検査技術の開発

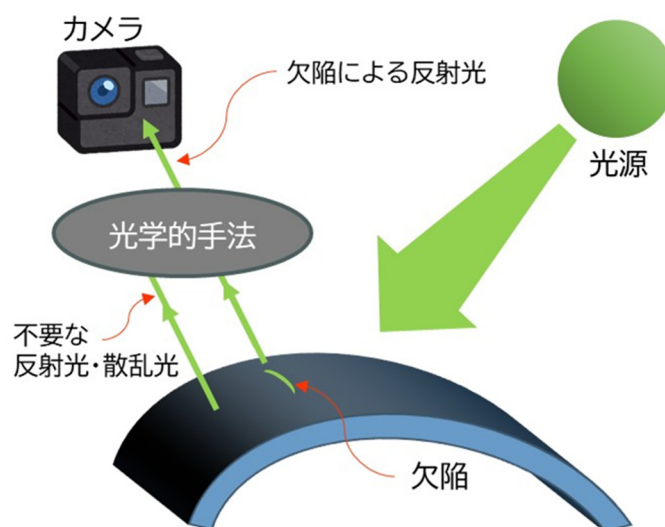
事業名 経常研究

研究期間 令和8～10年度

担当者 電子情報科 田中 博樹

金属部品等の生産において、高精度な最先端加工技術を利用した場合であっても、意図しない傷や凹み等の欠陥が発生してしまうことがあります。この欠陥を見つけるために、生産現場では、作業員の目視による官能検査が一般的に行われています。一方で、生産性を向上させ、高品質な製品を安定的に供給するためには、検査工程のDX化や省人化が、極めて重要な取り組みとなります。この取り組みを進めるためには、検査対象の欠陥をデジタル画像として鮮明に捉える必要があります。

欠陥の画像を取得しようとする際に、欠陥部位が曲面上にあると、欠陥の場所や形状ならびに光源およびカメラの位置関係等により、反射光や散乱光の影響を強く受け、欠陥を鮮明に捉えられないことがあるという技術的な課題があります。この課題への対応策として、ロボットアームの先端に光源とカメラを取り付けて、曲面に沿って連続的に撮像することで欠陥を鮮明に画像化する方法があります。しかしながら、このようなロボットアームを用いた外観検査システムは高額でオペレーションも煩雑なため、中小企業での利用のハードルは高くなってしまいます。そこで本研究では、光学的手法の応用により、従来よりも安価な装置構成で金属部品等の曲面上に発生する欠陥を鮮明に撮像できる技術を開発します。



光学的手法を応用した外観検査技術の概要

配光制御したLED照明ユニットの開発

事業名 経常研究

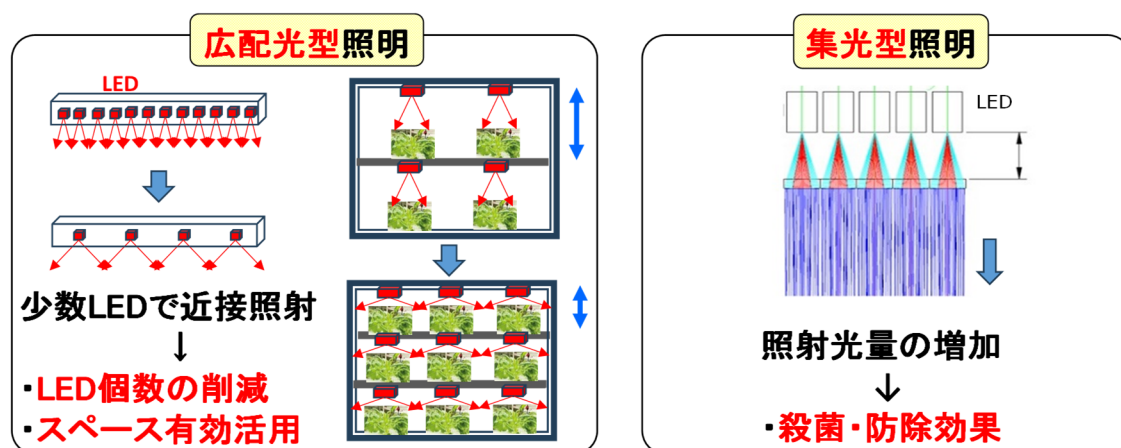
研究期間 令和8～10年度

担当者 工業材料・環境科 田尻 健志

2050年カーボンニュートラルの実現に向け、国では経済成長と環境循環の両立を図るため、水素を含む再生可能エネルギーの主力電源化が進められています。農業と工業を融合した植物工場は、地域資源を有効に活用できる点で親和性が高く、地域活性化への貢献が期待されています。

本研究では、システムの低コスト化および構成部品の小型化を実現するLED照明ユニットを開発し、本県独自の小規模かつ地産地消型エネルギーシステムの構築を目指します。

開発する照明ユニットには、放熱の少ないLED光源を使用し、植物の生育に適した光を効率よく届けるための光学設計技術を導入します。近接照射が可能な広配光型のユニットでは、光を均一に広げることによってLEDの個数を削減し、省エネルギー化と効率的な栽培・作業スペースの確保を両立します。一方、集光型のユニットでは光を高密度に集めて照射面の光強度を高めることで、殺菌や病害防除における効果の向上を図ります。



見学対応報告・研究キャラバン

➤ 研究キャラバン [長崎工業会]

1月14日(水曜日)、長崎工業会との研究キャラバン(意見交換会)を実施しました。参加者は22名(長崎工業会18名、工業技術センター4名)でした。

会議ではまず、当センターの活動紹介と技術支援に係るトピックス紹介を行いました。活動紹介では県の重点施策に即した当センターの取組などについて、トピックス紹介では新規導入設備(粗さ・輪郭形状測定機)を活用した測定などについて説明しました。

その後、新規導入設備、工業技術センターのPRの重要性、新規JIS規格制定を活用した事業化戦略の進め方などについて、情報交換と意見交換が行われました。



➤ 研究キャラバン [新月会]

1月22日(木曜日)に新月会との研究キャラバン(意見交換会)を実施しました。参加者は21名(新月会15名〔産業振興財団を含む〕、工業技術センター6名)でした。

このキャラバンでは、当センターの活動紹介に加え、所内主要設備の見学などを行いました。また、産業振興財団から補助制度について説明があった後、当センターの設備利用や技術支援の受け方などについて意見交換と情報交換が行われました。



➤ 見学対応報告 [佐賀・長崎県茶場技術者合同研修会]

1月27日(火曜日)、佐賀県と長崎県の茶の生産指導を行っている関係者22名が、食品加工への知識を深め、今後の佐賀・長崎両県の茶生産振興に資することを目的に、食品開発支援センターを訪問されました。

はじめに工業技術センターの業務内容、食品開発支援センターの事業者への支援内容やその流れ、支援によって販売につながった商品などの説明をしました。その後、2班に分かれて、所内を見学していただきました。食品開発支援センター加工棟内の食品製造機器類はパネルを見ながらどのような加工ができる機器なのか説明を聞いてもらった後、各加工室内に入室いただき実機の見学を行いました。



➤ 見学対応報告 [令和7年度産業技術連携推進会議 九州・沖縄地域産業技術連携推進会議 九州・沖縄地域部会]

1月30日(金曜日)に、九州・沖縄地域産業技術連携推進会議九州・沖縄地域部会の関係機関12名の方々が長崎県工業技術センターを来訪され施設見学会を開催しました。多様化・高度化する企業の技術開発支援ニーズに対する橋渡し機能を強化するため、九州経済産業局・産業技術総合研究所九州センター・関係機関・公設試験研究機関の広域的な支援連携関係の構築・深化をはかり、九州・沖縄地域の産業技術力支援の強化促進を目的としています。



工業技術センターの業務内容について動画などを用いて説明した後、約1時間30分にわたり各試験機器などを見学いただきました。情報の共有化をはかり協力して企業の技術開発支援に取り組んでいきます。

➤ 研究キャラバン [大村商工会議所 食品部会]

3月4日(水曜日)、大村商工会議所食品部会との研究キャラバン(意見交換会)を実施しました。参加者は16名(大村商工会議所食品部会8名、工業技術センター8名)でした。

会議ではまず、食品開発支援センターの活動紹介と技術支援に係るトピックス紹介を行いました。活動紹介では食品開発支援センターの3つの機能である県産農産物加工品の高付加価値化、外部専門家活用による企画支援、テスト販売可能な施設開放について紹介しました。

その後、食品開発支援センター加工棟の設備を見学しました。導入設備の機能や能力の説明を聞きながら、どのような加工に適しているのかなど質問が活発に飛び交いました。見学の後も工業技術センターに求められる役割や今後の食品製造業への支援などについて、情報交換と意見交換が行われました。



受賞報告

▶ 第26回計測自動制御学会システムインテグレーション部門講演会にて優秀講演賞を受賞

令和7年12月10日(水曜日)から12日(金曜日)まで広島国際会議場(広島県)で開催された、第26回計測自動制御学会システムインテグレーション部門講演会(SI2025)において、「小型テストベッドASV“MEEV-1”の開発」と題した研究発表を行い、優秀講演賞を受賞しました。

本発表は、水域ロボティクスの低コスト化を目的として開発した自律型水上ロボット“MEEV-1”特有の問題である、搭載バッテリー残量の低下に伴うスラスト推力の低下を考慮した運動モデルを提案するとともに、自律航行の基本となる運動制御系を設計し、シミュレーションによってその妥当性を検証したものです。本研究成果はソフトウェアによる機能代替を通じたロボットの部品点数削減および低コスト化に寄与するとともに、水域ロボットの自律制御系や運用計画の高度化等への応用が見込まれます。(受賞者 児玉 勝敏)



発表ポスターと表彰状

▼▼ 工業技術センターへのお問い合わせは、こちらまでどうぞ。 ▼▼

<https://apply.e-tumo.jp/pref-nagasaki-u/offer/userLoginDispNon?tempSeq=6906&accessFrom=>



➤ 三次元測定機(初級)セミナー

1月19日(月曜日)、工業技術センターにおいて三次元測定機(初級)セミナーを開催しました。

このセミナーは初級編とし、「三次元測定機の操作をしているが、基礎知識を十分に学んでいない方」に向けた内容としました。「幾何公差基礎」についての座学、および「公差照合」、「交叉要素測定」に関して測定実習をしました。

普段意識しない考え方や、普段使わない測定機能に触れてもらい、受講者の皆さんには、活用の幅が広がりそうだと感じてもらうことができました。受講者は6名(定員)でした。(担当 福田 洋平)



➤ 5軸加工技術セミナー

1月22日(木曜日)、工業技術センターにおいて、5軸加工に関する基礎技術セミナーを開催しました。

工作機械メーカーやCAMメーカーの製品紹介よりも掘り下げた実務的な内容とし、「CNC装置の5軸加工機能」、「3軸加工と5軸加工の精度比較」、および「5軸加工の活用による生産性の向上」について、講演しました。

当センターの5軸制御立形マシニングセンタとNCシミュレーションソフトを活用し、NCプログラムに対する各軸の動きを視覚的に理解できる様に工夫して開催いたしました。受講者は1名でした。(担当 福田 洋平)



➤ デジタル塾「表面粗さ測定セミナー」

1月26日(月曜日)、粗さ・輪郭形状測定機の活用促進を目的に「表面粗さ測定セミナー」を開催しました。当日は企業技術者を中心に8名が参加しました。セミナーでは、粗さ標準片を用いた校正方法、基本的な測定手順、測定条件の設定、レイアウト編集およびデータ保存の方法について解説を行いました。その後、参加者が持参したサンプルワークを用いて実際の測定を実施し、装置操作の理解を深める実践的な内容となりました。参加者は終始熱心に取り組んでおり、測定技術の習得に向けて積極的に実習を進めていました。今回のセミナーは、表面粗さ測定の基礎理解と機器活用の促進に寄与する有意義な機会となりました。(担当 小楠 進一)



▶ シミュレーション技術研究会（第2回）

2月10日(火曜日)に本年度第2回のシミュレーション技術研究会を当センターにおいて開催しました。参加者は15名でした。

今回は水処理技術に焦点を当て、シミュレーションを含むデータサイエンスやプロセス・インフォマティクスの観点から、先端的な排水処理設備の開発に取り組んでいる企業から講師をお招きして、自社製品について御紹介いただきました。



最初に、WATASUMI.Inc/株式会社 Spirete の David Simpson CEO/渡邊幸治 代表取締役から「高濃度有機排水に対応した新しい有機排水処理システムのご紹介」の演題で、ご講演いただきました。WATASUMI.Inc は、ノーベル賞受賞者を輩出する沖縄科学技術大学院大学 (OIST) からスピンアウトして設立されたベンチャー企業で、中小規模の有機排水処理に独自の技術を有しています。ワタスミシステムは、小型かつ、ほぼメンテフリーで運用が可能な、嫌気性有機排水処理システムです。微生物燃料電池の最先端技術を用いることで、従来の装置と比較して、大幅な小型化、低コスト化、安定運用を実現しました。有機排水からバイオガスを生成し、曝気も不要なことから、消費電力も少なく、CO₂排出量削減にも貢献します。日本各地の醸造関連企業への導入事例をご紹介いただき、長崎県内の清酒・焼酎業界への導入も期待されます。

次に、協和機電工業株式会社の杉山航様から「高性能繊維濾過装置 F-CAP のご紹介」の演題で、ご講演いただきました。高性能繊維濾過装置 F-CAP は、独自の内部構造（特許登録済）により、微粒子除去率が高く、強い濁りにも対応可能な繊維濾過器です。繊維配向と充填密度の最適化により、凝集剤フリーで水中の5 μ m未満の微粒子を除去することができます。

水処理分野において、単なるスケールメリットだけでなく、SGDs の観点からシステム全体の最適化技術が進んでいることを実感しました。 (担当 重光 保博)

▶ デジタル塾「輪郭形状測定セミナー」

2月24日(火曜日)、粗さ・輪郭形状測定機の利活用を推進するため、「輪郭形状測定セミナー」を開催しました。当日は企業技術者8名が参加し、測定機の基本操作から応用までを体系的に学びました。セミナーでは、一括校正の流れ、基本的な測定手順、測定条件の設定、輪郭解析の操作、レイアウト編集やデータ保存の方法について解説を行いました。続いて、参加者が持参したサンプルワークを使った実測を行い、装置の扱い方を実践的に習得しました。参加者は集中して取り組み、測定技術の理解を着実に深めていました。今回のセミナーは、輪郭形状測定の基礎習得と機器活用の促進に寄与する有意義な機会となりました。 (担当 小楠 進一)



➤ 金属材料基礎セミナー

2月25日(水曜日)に、金属材料基礎セミナーを実施しました。このセミナーでは、金属材料に関する基礎知識として鉄鋼材料の特性(溶接、切削加工等)、非鉄材料の特性(溶接、切削加工等)、鉄鋼材料の熱処理について説明しました。

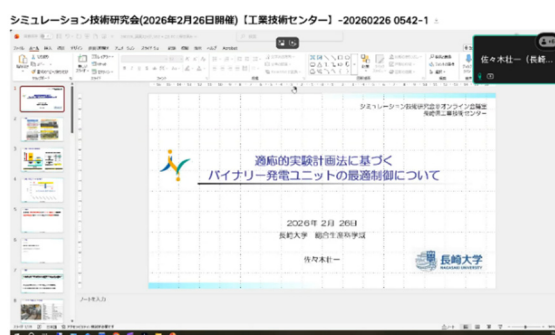
今回のセミナーでは56名の方にご参加いただきました。今後も基礎的な内容だけでなく、金属材料の加工方法等の一歩踏み込んだ内容のセミナー開催についても検討していきます。

(担当 瀧内 直祐)



➤ シミュレーション技術研究会(第3回)

2月26日(木曜日)、シミュレーション技術研究会をオンラインにて開催しました。この研究会では長崎大学大学院総合生産科学研究科(工学系)の佐々木壮一助教に「適応的実験計画法に基づくバイナリー発電ユニットの最適制御について」と題して講演いただきました。地熱エネルギーを利用したバイナリー発電ユニットを対象に、適応制御を用いてタービンの出力を最大化して、かつ発電ユニット内の消費動力を最小とする制御パラメータの調整手法について紹介いただきました。



8名の方々にご参加いただき、活発な質疑応答が交わされました。今後もシミュレーション技術の新たな展開や技術動向に着目して技術セミナーや研究会を実施する予定です、実施したいテーマなどの要望も承ります、お気軽にご参加ください。

(担当 入江 直樹)

➤ 地域企業の成長戦略セミナー「地域企業の事業拡大・新分野挑戦を成功に導くための公設試への期待と活用について」

3月5日(木曜日)に、地域企業の成長戦略セミナーを工業技術センターにて開催しました。今回のセミナーでは株式会社DANの段野代表取締役から「地域企業の事業拡大・新分野挑戦を成功に導くための公設試への期待と活用」と題して講演いただきました。その内容は公設試と協力した地域企業の成長戦略の概要と、新規事業を実現するためのマーケティング調査、資金調達、公的補助金を利用した事業計画の構築方法について紹介いただきました。28名の方々にご参加いただき、新規事業計画を立てるにあたっての現場主義の重要性などについて意見交換しました。

(担当 入江 直樹)



▶ EMC対策等に関する技術セミナー

3月6日(金曜日)に、EMC対策等に関する技術セミナーを開催しました。今回のセミナーには、20名の皆様にご参加いただきました。

セミナー前半の講演では、戸田工業株式会社 創造本部 軟磁性材料事業開発グループ 課長の木村 哲也 氏に講師を務めていただき、磁性や磁気特性についての説明、同社の軟磁性素材の開発事例およびノイズ対策部材の紹介をしていただきました。



セミナー後半の講演では、戸田工業株式会社 創造本部 軟磁性材料事業開発グループ 課長の寺西 学氏に講師を務めていただき、EMCと電磁波ノイズの種類および電磁波ノイズ対策に有効な対策部材と評価方法について、説明ならびに電磁波ノイズ対策部材の適用事例紹介をしていただきました。

会場には、当センターに設置している同社の試供品である、ケーブル巻き付け可能なフェライトテープおよびシート状の電磁波シールド材を展示しており、講演終了後には講師も交えて意見交換が行われました。

今後も、皆様が当センターのEMC関係機器をご利用いただく際に役立つ情報を提供できる技術セミナーを企画してまいりたいと考えております。

(担当 田中 博樹)

▶ シミュレーション技術研究会 (第4回)

3月13日(金曜日)に、本年度第4回のシミュレーション技術研究会を、長崎大学化学物質工学セミナー第756回例会との合同で開催しました。参加者は11名でした。本研究会では、最近急速に発展している「マテリアルズインフォマティクス(MI)と計算化学」に関する集中レクチャーとして、両分野に造詣の深い先生をお招きしてご講演いただいています。今回は、東北大学金属材料研究所の大谷優介准教授から「力学作用下における分子ダイナミクスがもたらす材料の機能発現・破壊のシミュレーション」の演題で、ご講演いただきました。材料の劣化や変質は、分子レベルで起きる非可逆的な科学変化が根本的原因です。ご講演では、この微視的变化に関する分子シミュレーションを行い、そのメカニズムの解明と対策をお話いただきました。



機械類の摩擦逓減に使用される潤滑剤は、添加物によって大きな性能向上が見られますが、そのメカニズムは明らかにされていません。添加物と摺動界面の間で働く分子間相互作用の時間的変化を解析し、そのメカニズムを明らかにしました。分子シミュレーションの高速化を実現するために不可欠な機械学習ポテンシャルについても解説がありました。また、分子性結晶が力学的刺激で発光する現象(ピエゾクロミズム)について、分子シミュレーションの結果から、その歪み方向ベクトルの違いによって分子間相互作用がチューニングされ、発光スイッチングが誘起される結果もお話いただきました。この結果は、有機発光デバイスの開発において有益な知見を与えると期待されます。

ものづくりの根本である物質設計分野にデータサイエンスが着実に浸透している現状を実感しました。

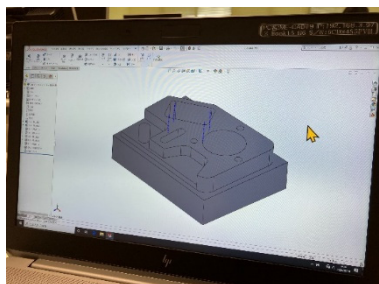
(担当 重光 保博)

➤ CAD/CAM 入門セミナー

3月18日(水曜日)、長与町にある長崎高等技術専門学校において CAD/CAM 入門セミナーを開催しました。本セミナーは、対話型プログラミングから CAD/CAM 活用に移行したいという県内企業の要望を受けて企画しました。

入門編と位置づけ、3DCAD も CAM も使用したことがないという方に向けた内容で、「SOLIDWORKS による 3D モデルの作成」、「SolidCAM による 2D モデル加工の設定」、および「SolidCAM による 3D 加工の設定」について実習しました。受講者は3名(定員)でした。

令和8年度の CAD/CAM 入門セミナーは、6月末ごろの開催を予定しています。(担当 福田 洋平)



(課題モデル)



➤ 機械設計における 3D-CAD セミナー

3月19日(木曜日)、機械設計における 3D-CAD 活用セミナーを実施し、3D-CAD やシミュレーション(静解析)を機械設計に用いる流れを体験していただきました。今後は、より基礎的なモデリングを体験できる場や今回の様なシミュレーションを機械設計で用いる流れの体験の場に分けて、企画していく予定です。(担当 西村 学)



➤ 成長産業連携セミナー「県内造船所と県内企業のマッチングに向けた工場見学および意見交換会」

3月23日(月曜日)、工業技術センターでは、県内大手造船所と県内中小企業との連携促進を通じた新たな需要獲得を目的として、株式会社大島造船所様のご協力のもと、成長産業連携セミナー「県内造船所と県内企業のマッチングに向けた工場見学および意見交換会」を開催いたしました。

当日は32名が参加し、まず株式会社大島造船所様の工場を見学しました。その後の意見交換会では、参加企業から大島造船所様への要望に加え、工業技術センターへのご意見・ご要望も多数いただき、活発な意見交換の場となりました。

今後も大手企業と県内中小企業とのビジネスマッチングの機会を創出するとともに、その過程で生じる技術課題の解決に取り組み、県内産業の発展に貢献してまいります。(担当 小楠 進一)

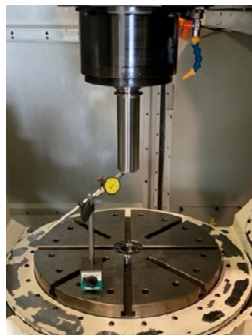


▶ マシニング作業（中級）セミナー

3月25日（水曜日）、材料加工技術研究会（マシニングセンタ作業（中級）セミナー）を開催しました。4月に申し込みが始まる技能検定（マシニングセンタ作業2級）を受験検討中の方をターゲットとしたセミナーとなります。

内容は、①切削理論、②工程検討およびプログラムチェックについて、③工作物の測定および芯出し作業の3項目です。経験を積まないで理解が難しい切削理論を改めて勉強していただくとともに、NCプログラムの間違い探しや、シリンダゲージなどを用いた測定作業に取り組んでいただきました。今回の受講者は6名でした。

（担当 福田 洋平）



▼▼ 工業技術センターへのお問い合わせは、こちらまでどうぞ。 ▼▼

<https://apply.e-tumo.jp/pref-nagasaki-u/offer/userLoginDispNon?tempSeq=6906&accessFrom=>



1月～4月の行事

1月	14日	研究キャラバン [長崎工業会]	(長崎市)	
	14日	令和7年度長崎県特産品新作展審査会	(長崎市)	
	15～16日	超分子化学と機能性材料に関する国際シンポジウム	(東京都)	
	19日	三次元測定機(初級)セミナー	(工業技術センター)	
	21日	ZERO CARBON STEP NAGASAKI	(長崎市)	
	22日	研究キャラバン [新月会]	(工業技術センター)	
	22日	5軸加工技術セミナー	(工業技術センター)	
	26日	デジタル塾「表面粗さ測定セミナー」	(工業技術センター)	
	27日	佐賀・長崎県茶場技術者合同研修会	(工業技術センター)	
	28～30日	Offshore TechJapan2026 技術調査	(東京都)	
	29日	産技連九州沖縄地域産業技術連携推進会議	(長崎市)	
	30日	産技連九州沖縄地域産業技術連携推進会議見学会	(大村市)	
	2月	3日	食品開発支援センター 外部人材相談会	(工業技術センター)
		10日	産学官連携サロン	(長崎市)
10日		シミュレーション技術研究会 (第2回)	(工業技術センター)	
12～13日		九州連携 CAE 研究会	(鹿児島県)	
16日		第4回 JIS 原案作成委員会分科会	(オンライン)	
17～18日		地域オープンイノベーション力強化事業第3回 WG	(大阪府)	
17日		第99回機関長協議会幹事会	(オンライン)	
24日		デジタル塾「輪郭形状測定セミナー」	(工業技術センター)	
25日		金属材料基礎セミナー	(工業技術センター)	
26日		シミュレーション技術研究会 (第3回)	(オンライン)	
27日	農林業研究開発推進会議分野別検討会	(オンライン)		
3月	4日	研究キャラバン [大村商工会議所食品部会]	(工業技術センター)	
	5日	地域企業の成長戦略セミナー「地域企業の事業拡大・新分野挑戦を成功に導くための公設試への期待と活用について」	(工業技術センター)	
	5～6日	地域密着型 CAE/CAX 研究会、計算工学会	(オンライン)	
	13日	シミュレーション技術研究会 (第4回)	(長崎市)	
	17日	令和8年度新酒研究会	(諫早市)	
	17日	佐世保高専半導体人材育成センター開所式及びシンポジウム	(佐世保市)	
	18日	CAD/CAM システム入門セミナー	(長与町)	
	19日	福岡県酒造組合主催吟醸酒研究会	(福岡県)	
	19日	機械設計における 3D-CAD 活用セミナー	(工業技術センター)	
	23日	成長産業連携セミナー「県内造船所と県内企業のマッチングに向けた工場見学及び意見交換会」	(西海市)	
	25日	マシニング作業 (中級) セミナー	(工業技術センター)	
	4月	14日	伸和コントロールズ(株)所内見学 (11名)	(工業技術センター)

主な技術支援の件数(1月～4月)

	1月	2月	3月	4月
技術相談	66件	61件	52件	61件
依頼試験	60件	117件	231件	246件
設備開放	77件	60件	57件	55件

皆様のご利用をお待ちしております。

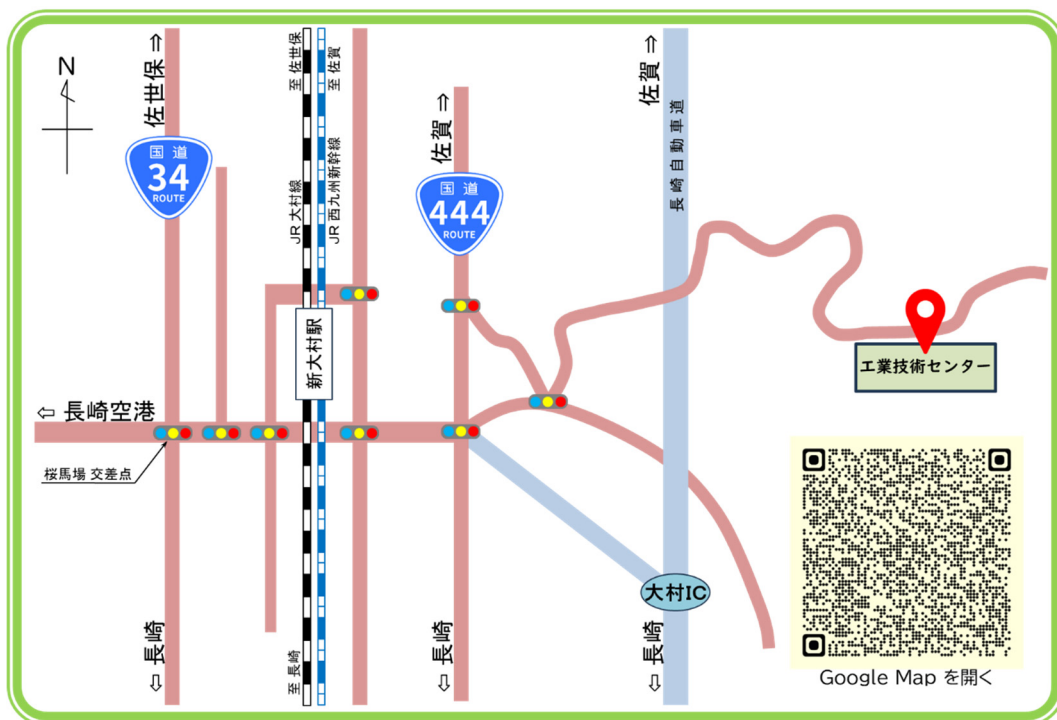
お知らせ

長崎県工業技術センターの新規採用職員(令和8年1月)

新所属 職名	氏 名	旧所属 職名
食品開発支援センター 研究員	江口 恵加	新規採用職員

長崎県工業技術センターに係る人事異動(令和8年4月)

新所属・職名	氏 名	旧所属・職名
所長	柳下 立夫	国立研究開発法人産業技術総合研究所 中国センター 所長代理
次長 兼 総務課長	川口 晋治	公益財団法人長崎県産業振興財団 取引振興課長
次長	市瀬 英明	基盤技術部長
基盤技術部長 兼 研究企画課長	入江 直樹	研究企画課長
応用技術部長	三木 伸一	応用技術部長 兼 工業材料・環境科長
電子情報科長	田中 博樹	電子情報科 主任研究員
工業材料・環境科長	田尻 健志	電子情報科長
機械加工科 専門研究員(延)	田口 喜祥	次長
研究企画課 兼 電子情報科 主任研究員	中川 豪	電子情報科 主任研究員
機械システム科 主任研究員	西村 学	研究企画課 兼 機械システム科 主任研究員
機械システム科 主任研究員	兒玉 勝敏	機械システム科 研究員
食品開発支援センター 主任研究員	横山 智栄	新産業推進課 係長
経営支援課 課長補佐(延)	太田 修	次長 兼 総務課長
産業政策課 係長	三島 朋子	食品開発支援センター 主任研究員
食品安全・消費生活課 主任技師	川原 晶	食品開発支援センター 主任研究員
退職	野中 一洋	所長



長崎県工業技術センターへのアクセス



ホームページ



お問合せサイト



CHALLENGE 掲載サイト

長崎県工業技術センター

〒856-0026 長崎県大村市池田 2-1303-8

TEL 0957-52-1133

FAX 0957-52-1136

URL <https://www.pref.nagasaki.jp/organization/sangyorodobu/kogyo-c/>

問合せ <https://apply.e-tumo.jp/pref-nagasaki-u/offer/userLoginDispNon?tempSeq=6906&accessFrom=>